



# 「信濃の国」 と 保科百助 “五無齋”



2025.7.29

長野上水内教育会

夏季大学第1講座

# 自己紹介にかえて

## 信濃の国・保科五無齋とのご縁

---

- 1961年 千葉県市川市出身
- 信州大学教育学部出身 赤羽先生から保科五無齋を教えていただく
- 学芸員を志し、信州大学理学部へ進学 ※今日、ここにいる理由が！
- 塩尻西小学校勤務 「信濃の国」ダンスを学ぶ 西小の校歌も浅井の作詞だった
- 戸隠地質化石博物館へ勤務（1989年～） 保科五無齋を師匠に！

明治31（1898）年、信濃教育会は新しい唱歌づくりをはじめた。

長野師範学校の国語担任の内田慶三・浅井冽が作成。その中で「信濃の国」ができる。同校音楽教師 依田弁之助が作曲したが、その時はあまりうたわれなかった。

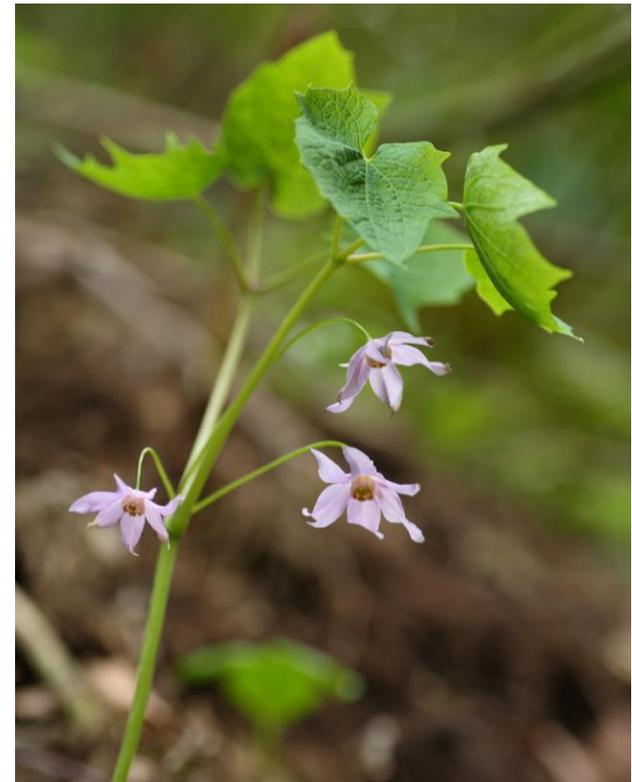
明治32年11月、音楽教師、北村季晴が青森師範より長野師範へ転任。翌年10月、女子生徒のダンス用に北村が作曲し、披露。34年にこの歌が発表される。

明治35年5月、皇太子だった大正天皇が、信越・東北諸国見学の途中で長野に寄り、師範学校を見学した際「**信濃の国**」の歌詞と「**戸隠升麻**」を皇居へ持ち帰ることとなる。

⇒**信濃博物学会の誕生**

# 「信濃の国」と

## 信濃教育会



トガクシショウマ

現在はトガクシソウ

# 保科百助（五無齋）

## とは何者？

- 明治元年（1868） 立科町（横鳥村）出身
- 明治19年（1886） 長野師範学校へ入学（浅井冽も赴任する 浅井の教え子）
- 明治24年 一年落第して、5年で卒業！
- 大豆島小学校 校長時代のエピソード 同和教育のはしり
- 明治34年 校長職を辞す
- 自由人として活動… 長野県地質を調べる 保科塾を開く 雑誌「信濃公論」を作る
- 明治44年 脳血栓で死去

# 保科が唱え、自ら実践したこと



- 
- 図書館 建設（現長野県立図書館）

自ら大八車を引く 筆・墨を売り歩く

- 信州大学設立を提唱 保科塾

- 信州博物館を構想する 長野県地学標本

- 夢をもち、郷土を愛し、子どもたちのため（=未来）に  
長野の大地を調べ、自ら実践した人

# 修学旅行が「信濃の国」誕生の鍵か？

---

明治19（1886）年 浅岡 一が長野師範学校校長となる

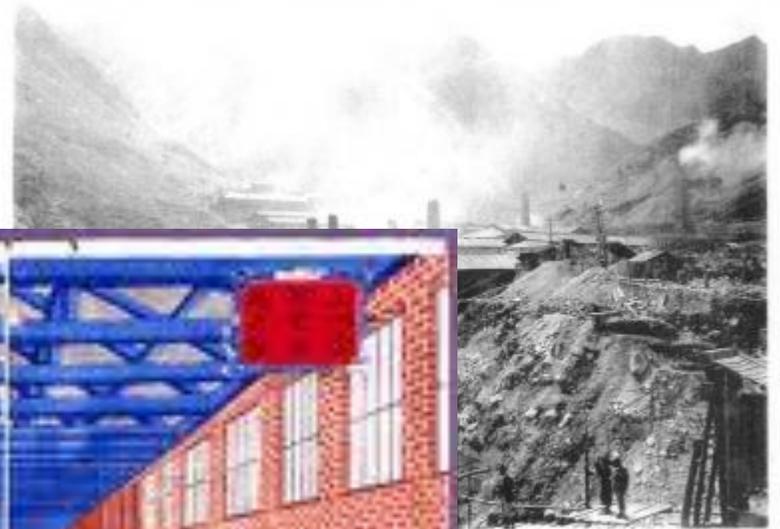
（渡辺 敏の実弟） 戊辰戦争に参加

浅井冽も師範学校に勤務する。

保科五無斎も入学する。

明治22（1889）年 浅岡校長 修学旅行をはじめる

# 保科が地学を志す きっかけとなった？



書

# 第2回 長野師範学校 修学旅行

浅井 冽 (38歳)

保科百助 (23歳) 落第したので参加したはず

7月22日

長野→東京→横浜→横須賀→鎌倉→富士山登山  
→甲府→上諏訪 (解散) 8月8日

このあと、保科は富倉で石油標本を得る



# 大豆島小校長 としての保科

(明治32～33年)

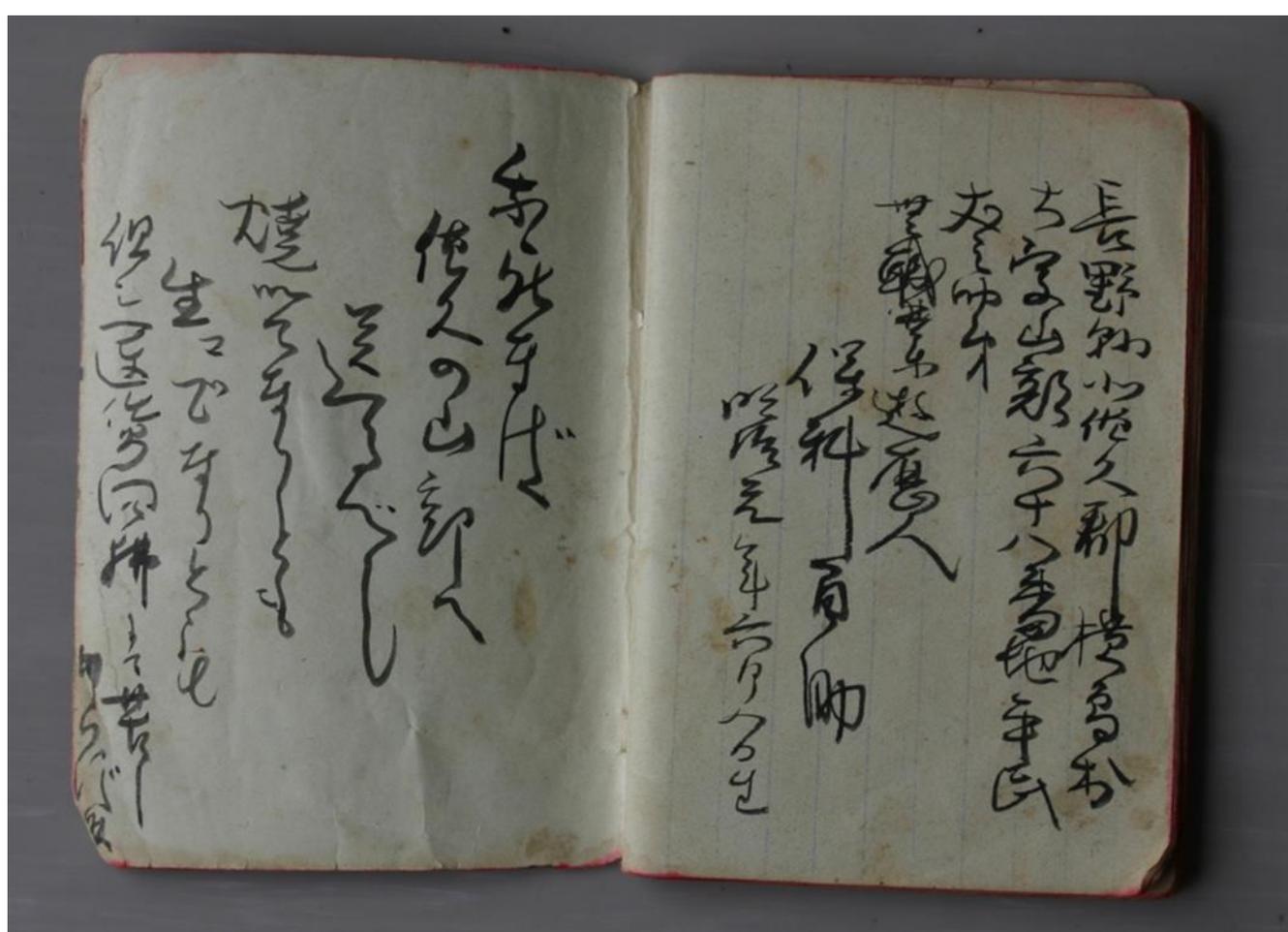
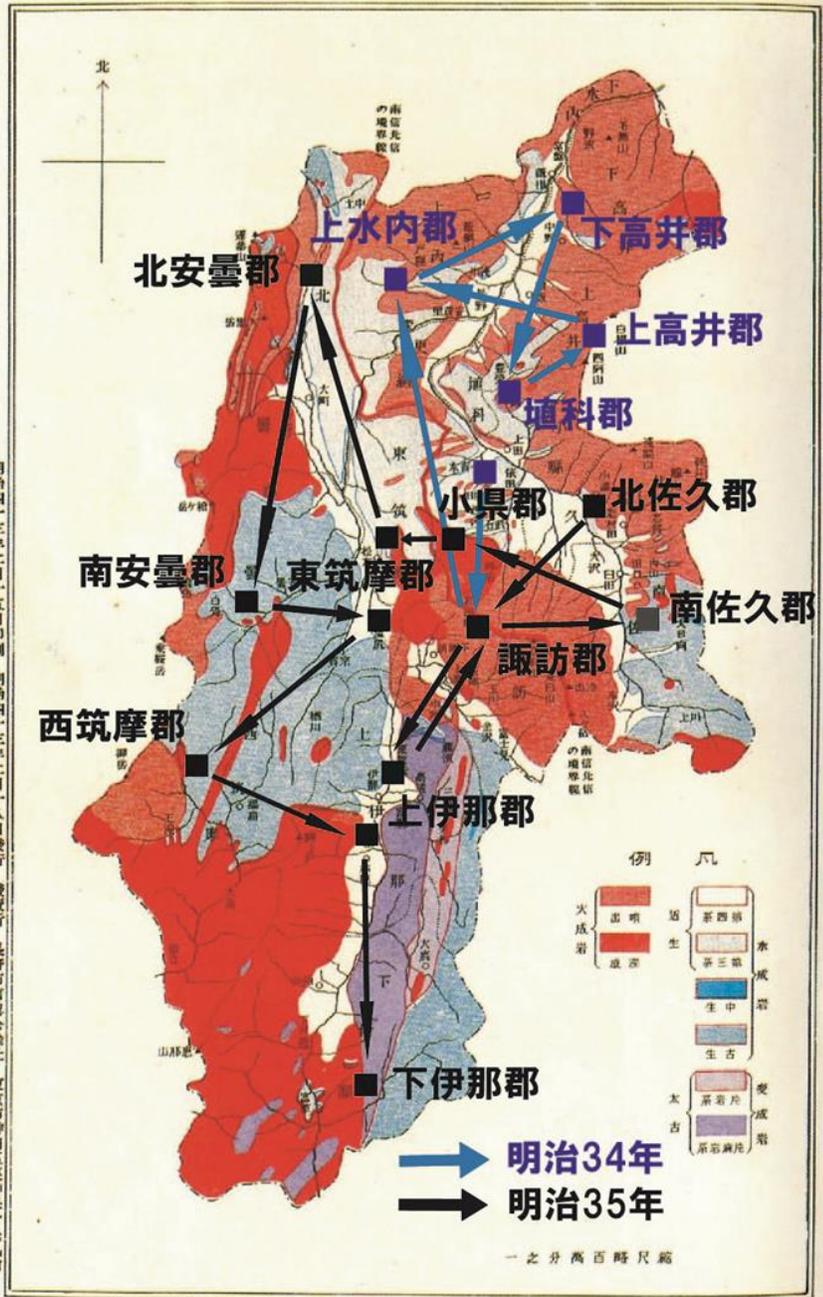


- 
- ・同和教育の実践
  - ・内外国織物標本をつくり、配布
  - ・初のPTA作業の展開

# 明治36年 長野県地学標本



# 明治34・35年 鉱物採集の順路



友人・知人を訪ねながら  
 長野県下を回る旅  
 約3tの岩塊採集

# 保科が目指したものの

「信濃の国」の山や川の特徴は  
地質の違いだと見抜いた

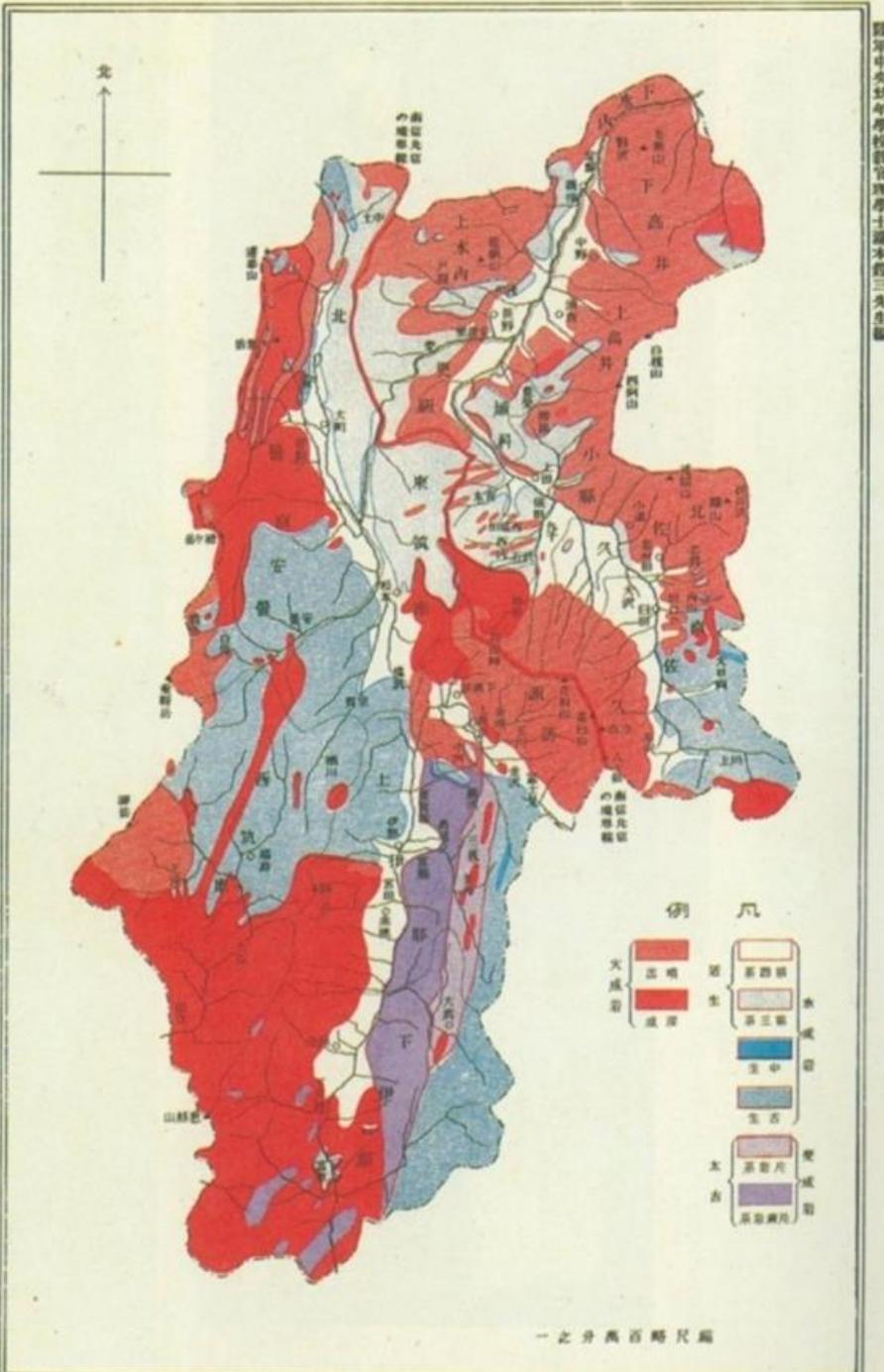
それを子どもたちに伝えたい

それぞれの場所で、産業も違う！

人々の暮らし方も違う！

それを子ども自らが学ぶ

**Nigirigin式教育法**



陸軍中央幼年学校教官理事士藤本豊三先生編

明治四十三年二月十五日印刷 明治四十三年二月十八日發行 發賣所 長野市信濃公論社 東京市神田區喜多町保町本屋敷

地形・地質 山・川・盆地

産業（農林業・養蚕）

古来からの名所（歌に詠まれる）

出身人物（武将・学者）

信越線の開通（未来）

**= 信濃の国の多様性**

⇒これらをすべて込めている

**県歌「信濃の国」の魅力**

---

# 保科の考え方を学ぼう！

地域の素材をより深く知ろう！

関連づけて考えよう！

時間軸を加えてみよう！

人がそこで生きることの意味を考えよう！

多様性を学ぶには、**現場や実物を見て、**

**本質を考えることが大事！**

# オマケ 浅井と保科は人として尊敬しあう！



- ・長野師範学校での師弟関係だった。当時、師範学校は全寮制で、舎監だった浅井は保科を気にかけて、保科が退学しようとした際に説得！
- ・保科が明治37年に開いた塾（妻科）は、浅井の寄宿先の近所！  
塾を閉める際に、保科は盆栽を浅井家においていった！
- ・保科の訃報が新聞に掲載された日、浅井は  
「気の毒なり信州の一 名物男を失いたるは誠惜しむべし」と記した
- ・保科の記念碑（加茂神社）の左側には、  
浅井作と言われる漢詩が彫られている